

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
たかだ	あきのり		
高田 明典	印		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
しおむら	きみひろ		
潮村 公弘	印	フェリス女学院大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
コミュニケーション専門ゼミⅡB	FERa-110702-2	11	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：調査計画の立案から、データの収集、集計、分析、分析結果の解釈にいたるまで、担当教員の指導と助言のもと、学生が自発的に行った。現実的妥当性を具備する実験的調査であるため、データ処理にはかなりの時間が必要であった。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：マルチモーダルコーパス解析の手法に基づく、デジタルサイネージの訴求構造分析。
2. 調査の内容／概要：デジタルサイネージを学内イベントにおいて2台条件を変えて設置し、近傍通過者の年齢層・性別・同行者種別などによって媒体到達率（着目率）が異なるか否かを検討した。また、媒体における提示内容によって、注視率が異なるか否かを検討した。
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：来訪者数 5820 名。ただし、提示映像数 20 種類。この種の研究においては、現実的妥当性を伴う調査であることが重要であるので、対象者は「大学祭への来訪者」となった。
4. 主な調査項目：視線滞留時間、着目回数。また、映像コンテンツに関する属性。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：大学祭に設置したデジタルサイネージによる、実験的調査。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査の実施時期：2011 年 11 月。調査地：横浜。調査員の数：24 名。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：データ条件を多様にする必要があるが、データ入力の手数を想定すると、演習内でできる限界に近い量であると考えられる。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：ダミー変数を用いた重回帰分析（数量化Ⅲ類）、分散分析。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：大学祭における媒体到達率は、およそ 2 割程度。性別や年齢層、同行者種別によって、デジタルサイネージへの着目率はかなり異なる。
10. 報告書刊行の予定と概要：なし。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。